

《費用対効果分析説明資料》

事業名	道路改築事業	地区名等	3・3・8号白銀市川環状線(桔梗野)
-----	--------	------	--------------------

【費用対効果の算定内容】

1. 費用対効果の算定根拠

算定の考え方は「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針(平成20年6月国土交通省)」による。
 本マニュアルにおいては、社会的余剰を便益(B)とし、整備に係る総費用及び維持修繕費を現在価値に割り引いたものを費用(C)として評価するものである。
 再評価においては、技術指針の考え方により、「事業全体の投資効率性」と、再評価時点までに発生した既投資分のコストや既発現便益を除いた「残事業の投資効率性」の両者による評価をするものとした。

2. 事業全体の投資効率性

(1)道路整備に要する費用(便益を算出する事業延長L= 2.73 km)

○C:総費用= 11,632 百万円

○総費用算出根拠

道路整備に要する費用から消費税及び用地取得に要する費用を除いたものに、供用後50年間の維持管理費を加えたものを現在価値化したもの。

(単位:百万円)

費用区分	事業費	用地費	維持修繕費	総費用
単純合計	9,737	1,825	520	8,432
現在価値	11,661	228	199	11,632

(2)道路整備による便益

○B:総便益= 23,945 百万円 B':修正総便益= 34,960 百万円

○総便益算出根拠

道路整備によりもたらされる社会的余剰として、整備後50年間、各項目について整備があった場合の費用から整備がなかった場合の費用を除いた額を便益として、それぞれ現在価値化したものの合計。

(単位:百万円)

便益区分	時間短縮	走行費用減少	交通事故減少			総便益	地域修正係数	修正総便益
初年便益	1,077	113	11			1,201		
現在価値	21,444	2,273	228			23,945	1.46	34,960

3. 残事業の投資効率性

(1)道路整備に要する費用(便益を算出する事業延長L= 2.73 km)

○C1:総費用= 2,285 百万円

○総費用算出根拠

道路整備に要する費用から消費税及び用地取得に要する費用を除いたものに、供用後40年間の維持管理費を加えたものを現在価値化したもの。

(単位:百万円)

費用区分	事業費	用地費	維持修繕費	総費用
単純合計	2,243	6	520	2,757
現在価値	2,087	1	199	2,285

(2)道路整備による便益

○B1:総便益= 9,870 百万円 B1':修正総便益 14,410 百万円

○総便益算出根拠

道路整備によりもたらされる社会的余剰として、整備後50年間、各項目について整備があった場合の費用から整備がなかった場合の費用を除いた額を便益として、それぞれ現在価値化したものの合計。

(単位:百万円)

便益区分	時間短縮	走行費用減少	交通事故減少	冬期	防災		総便益	地域修正係数	総便益
初年便益	439	48	8				495		
現在価値	8,753	965	152				9,870	1.46	14,410

【費用対効果分析の結果】

(事業全体)

費用便益比 B/C(再評価時点・事業全体) = 23,945百万円 / 11,632百万円 = 2.06

修正費用便益比 B'/C(再評価時点・事業全体) = 34,960百万円 / 11,632百万円 = 3.01

(残事業)

費用便益比 B1/C1(再評価時点・残事業) = 9,870百万円 / 2,285百万円 = 4.32

修正費用便益比 B1'/C1(再評価時点・残事業) = 14,410百万円 / 2,285百万円 = 6.31

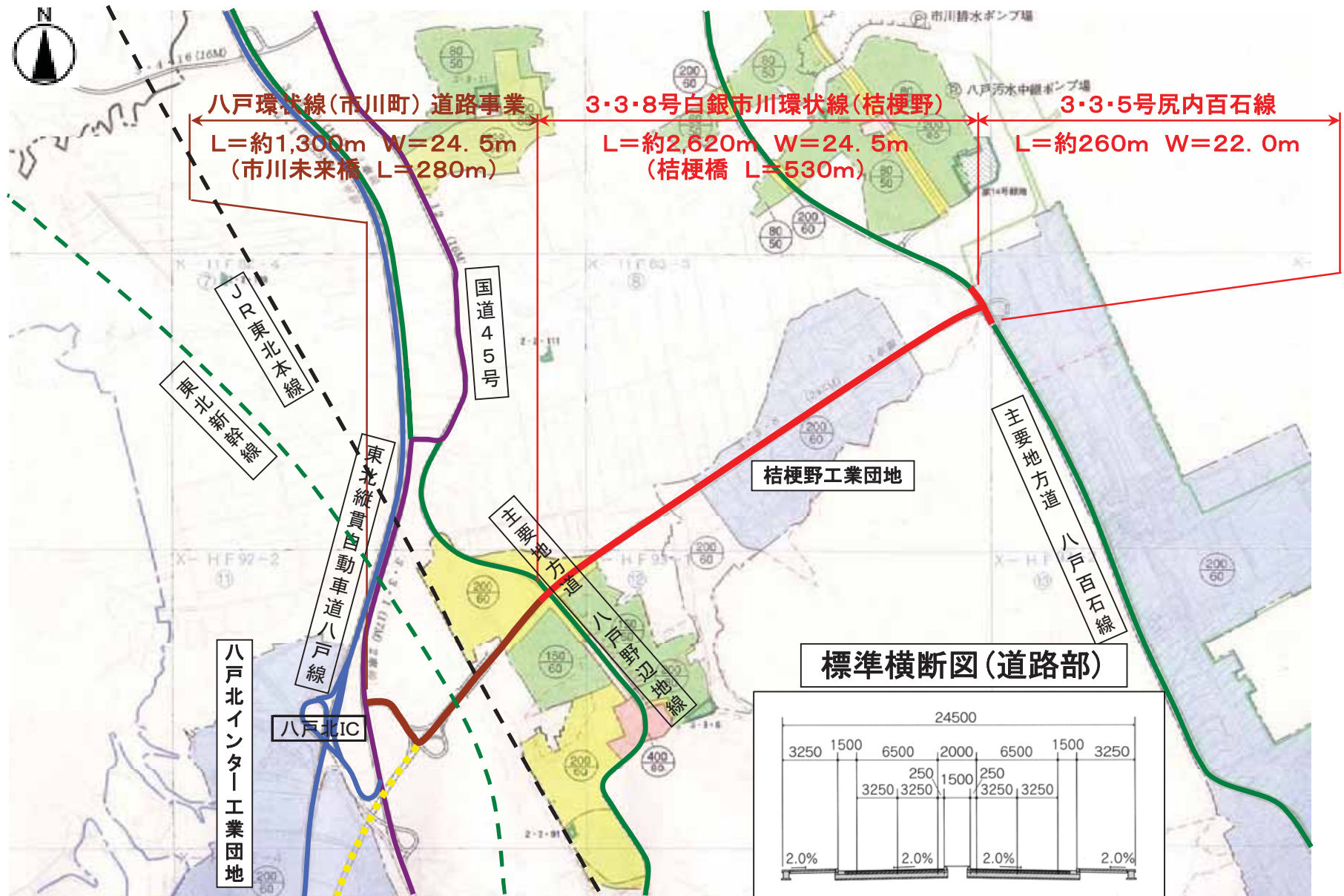
位置図



詳細位置図



計 画 図



現況写真

桔梗橋(下り線)



桔梗橋(上り線)



道路部(暫定供用区間)



道路部(未整備区間)



現況写真

道路部(未整備区間)



終点部交差点



尻内百石線(市内方向)



尻内百石線(百石方向)

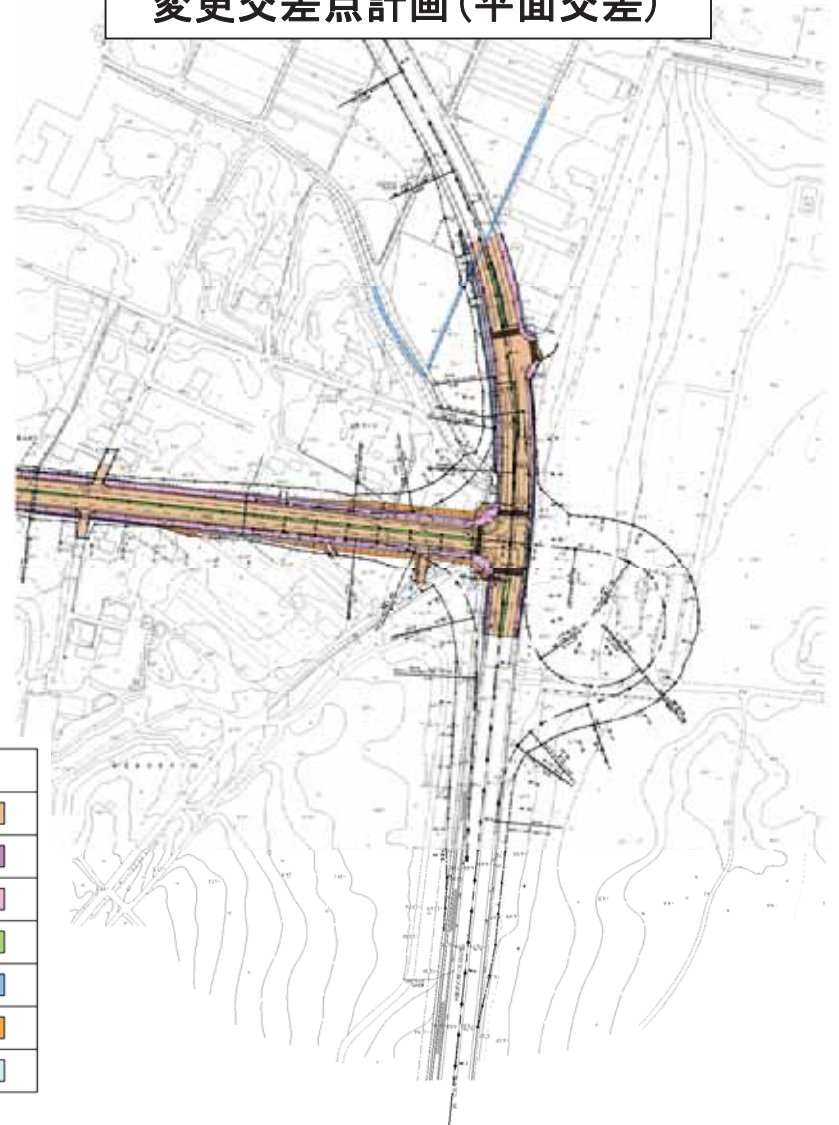








交差点計画変更図

当初交差点計画(立体交差)



変更交差点計画(平面交差)



凡 例	
車 道	
橋梁部(構造物)	
歩 道	
中央分離帯	
排水施設	
切土法面	
盛土法面	